様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２０ 日現在

機関番号：３３１１１
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2020～2022
課題番号：２０Ｋ２３２３９

研究課題名（和文）子育てと仕事の両立で母親が発揮する調整力の解明―新たな支援モデルの提唱に向けて

研究課題名（英文）Elucidating the ability to adjust that women exhibit when balancing work and child rearing: Toward the development of a new model of support.

研究代表者
和田　直子（Wada, Naoko）

新潟医療福祉大学・看護学部・准教授

研究者番号：６０６４６６４４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、子育てと仕事を両立する上で必要となる力を定義した上で、女性の産業看護職に対する期待と実際の支援の現状を明らかにすることである。調査の結果、1)両立する上で必要となる力は9つの因子で説明ができる可能性がある、2)約9割の産業看護職が両立に関連する相談を受けており、内訳はプライベートや仕事に関する相談、制度に関する相談、健康に関する相談である、3)専門職に対する期待と産業看護職個人に対する期待の2つに大別できる、4)産業看護職は、個別の健康相談に加え、会社全体に対する情報発信、支援制度が有効に機能しているかの判断、同じ境遇の者同士を繋ぐための支援を行っていることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
これまで両立支援の主流は、支援制度や支援体制を拡充することや両立に対する周囲の理解を促進することであった。本研究では、子育てと仕事を両立する上で女性に必要な力を明らかにすることができた。これにより女性の能力を育成する観点に基づいた新たな両立支援の在り方を提唱することが可能となる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this survey was to define the abilities needed to balance work and childcare, and then to clarify women's expectations of occupational health nurses(OHN) and the current status of actual support for them. Findings of the study,1) The necessary ability to balance work and childcare consisted of nine factors,2) Approximately 90% of OHN receive consultations related to balancing work and family life, and the breakdown is as follows: consultations related to personal and work life, consultations related to the system, and consultations related to health,3) There are two major categories: professional expectations and individual expectations of OHN,4) In addition to providing individual health consultation, OHN provide information to the company as a whole, determine whether the support system is functioning effectively, and provide support to connect people in the same situation with each other.

研究分野：公衆衛生看護

キーワード：子育て　仕事　両立　女性　両立力　産業看護職

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

わが国では 1992 年の育児休業法を契機に子育てと仕事の両立（以下、両立）を促す制度が整備されはじめ、現在では、第一子出産後の就業継続率は 53.1%である。しかし、就業状況を意欲の観点からみると、出産前の母親の 63.6%が出産後も働き続けたいと回答する一方で、実際には 25.4%の母親が出産後に退職している。退職理由の 20.0%は両立困難である。制度が拡充され、以前より就業環境が改善されてもなお、両立困難な母親が存在する。従来の法整備による画一的な支援だけでは限界があり、就業する子育て中の女性（以下、女性）個人に向けた「制度を補完する新たな支援」を模索する必要がある。

支援制度の限界は両立の困難に直結する。女性たちは制度の隙間を「両立しやすい環境を自ら工夫し調整するという努力」で補完している。女性には、両立するために周囲に理解や協力を求め関係者と調整していく力（本研究では、両立力と定義する）が求められるが、実践レベルで表現される両立力が、どのような能力で定義されるか明らかになっていない。両立の可不可は家族形態や雇用状況などが影響するため調整力だけで説明できるわけではない。しかし、どのような状況でも女性は両立を目指して力を発揮している。また、女性が期待する支援も明らかになっているが、それらの多くは国の制度や会社に対する期待であり、産業看護職に対する期待ではない。

２．研究の目的

現行の両立支援制度を補完する新たな支援を模索するために母親の両立力に着眼する。両立力を定義した上で、女性の産業看護職に対する期待と実際の支援の現状を明らかにする。

３．研究の方法

本研究の目的を達成するためには、以下２つの研究課題を達成する必要がある。①両立力の概念定義に必要な調査、②：産業看護職に対する母親の期待と産業看護職による支援の実態調査である。研究課題①②を達成するために以下を行った。

１）web 調査：2021 年 7 月 9 日～7 月 12 日、未就学児を抱えながら仕事をしたことのある女性を対象に web 調査を実施した。目標回答者数を 200 名に設定し、200 名から回答が得られた時点で調査を終了した。調査項目は、基本属性と対象者が認識している両立力である。基本属性は、年齢、居住地、職業、婚姻状況、家族構成を選択形式の回答により収集し、基本統計量を算出した。両立力の認識は、子育てと仕事を両立する上で必要となる力は何かを自由記述形式の回答より収集した。自由記述形式データの分析では、恣意的な分析を回避する必要があるため、KH Coder を用いたテキストマイニングにより解析した。※研究対象の女性は「日本の子育て中の就業女性（職種を問わない）」である。セレクションバイアスが入らないよう、母集団から日本の representativity を確保して標本をつくる必要がある。そのために対象の抽出を、学術調査の実績が豊富なクロスマーケティング社に依頼した。同社は郵送および web 調査用に蓄積している調査協力可能者リストを使用して対象者を募った。研究目的や方法などを説明し、同意が得られた女性を抽出した。

２）インタビュー：両立している女性を対象とした。産業看護職に期待する支援を尋ねた。

３）質問紙調査：2020 年 11 月 18 日時点の東証 1 部上場企業 1,909 社に対し産業看護職を対象とした調査依頼文書を郵送し、産業看護職から回答が得られた 72 件を分析対象とした。調査依頼文書には web 回答用の URL（QR コード含）を記載し、併せて自記式質問調査用紙と返信用封筒も同封した。対象者自らが web 回答と質問紙回答のどちらかを選択できるようにした．調査期間は 2020 年 12 月 15 日～2021 年 2 月 28 日である。調査項目①調査対象の基本属性：性別、年齢、持っている資格、現在の雇用、看護職として通算経験年数、産業看護職としての通算経験年数、所属する企業の業種、所属する企業全体の規模、所属する企業全体の産業看護職の人数、②両立している女性からの相談の有無と対応：子育てと仕事の両立に関して相談を受けたことはあるか、相談内容、支援の方法について自由記述により回答を求めた。意味内容の共通性・類似性を入念に検討しまとめた。

４．研究成果

１）自由記述形式データの総抽出語数は 3,481 語（529 文）であった。出現頻度上位の語を表 1 示す。以下、抽出語を「　」で示す。出現回数が多い語の順に「力」（62 回）、「協力」（46 回）、「体力」（46 回）、「仕事」（40 回）、「子ども」（39 回）、「家事」（32 回）、「理解」（28 回）であった。次に共起ネットワークの結果を図１に示す。共起ネットワークは 9 つのサブグラフで構成されており、女性が認識している両立力は 9 つの因子によって説明できることが明らかになった。さらに家族構成別の共起ネットワークの結果を図 2 に示す。核家族世帯の女性では「自分」「健康」、祖父母同居世帯の女性では「ストレス」「良い」という言葉が強調されていた。対応分析の結果を図 3 に示す。対応分析は、抽出語同士の関係性を散布図として視覚的に把握するものであり、原点から離れている語ほど特徴的な語と言える。対応分析では、「気力」「忍耐」「適当」「保育」「病」が原点から離れた距離に位置し

ていた。

表１．抽出語の出現頻度上位の言葉

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
力	62	自分	12
協力	46	健康	11
体力	46	周囲	11
仕事	40	サポート	10
子ども	39	ストレス	10
家事	32	育児	10
理解	28	能力	10
人	26	保育	10
時間	25	効率	9
忍耐	23	思う	9
必要	20	預ける	9
夫	20	両立	9
家族	19	気力	8
職場	19	求める	8
頼る	19	考える	8
周り	14	出来る	8
保育園	14	環境	7
子育て	13	手抜き	7
精神	13	助け	7
頑張る	12	心	7

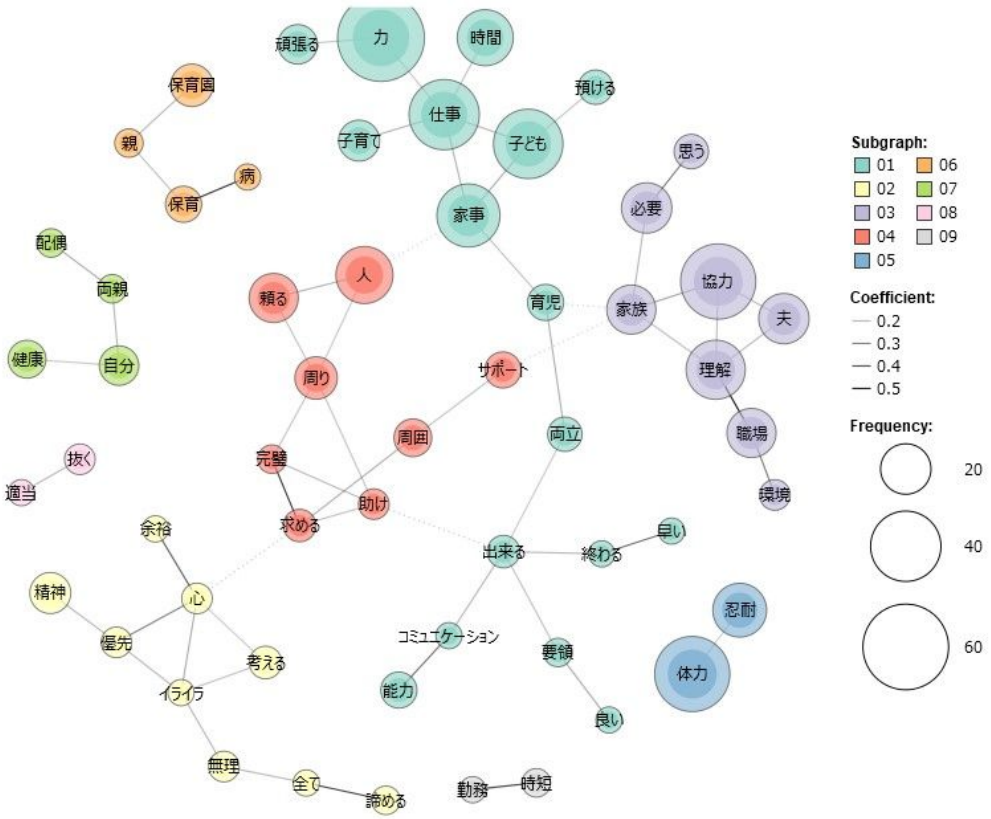

図１．　両立力の共起ネットワーク

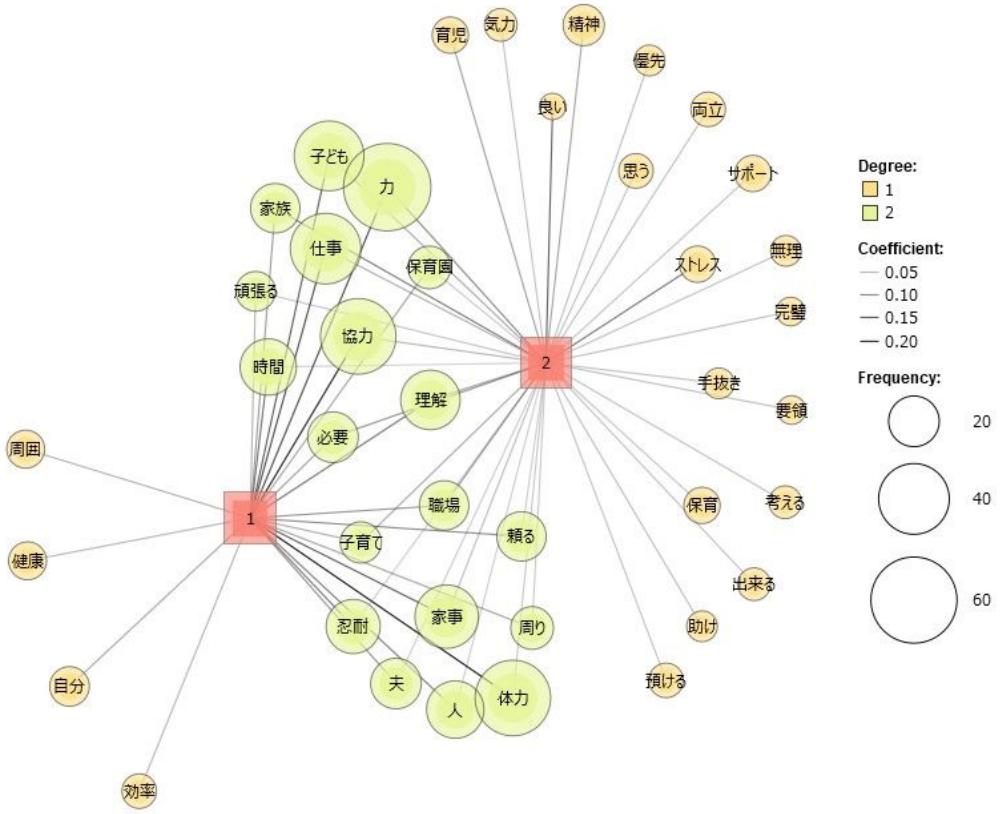

図 2.　家族構成別における両立力の共起ネットワーク

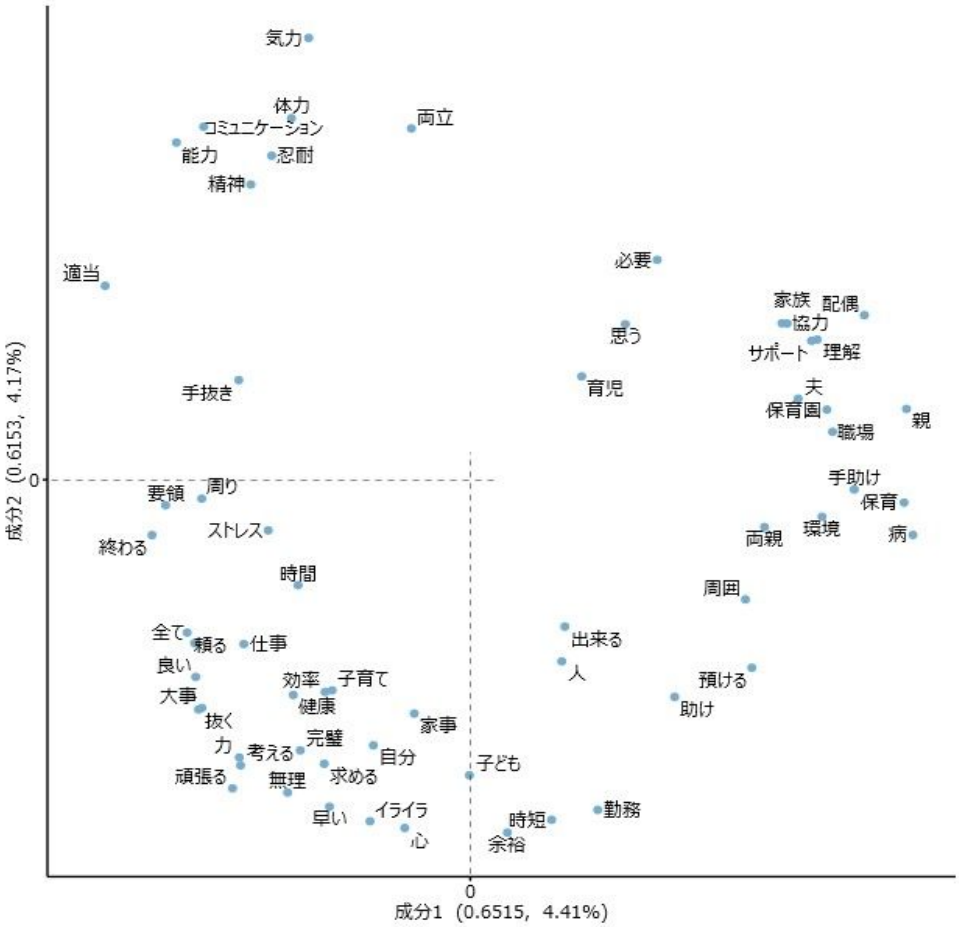

図 3.　両立力の対応分析

２）産業看護職に対する期待は、①専門職としての期待、②産業看護職個人に対する期待にわけられた。①：専門的立場からの情報提供（職場内における両立支援制度の利用状況、両立している職員の体験に関する情報など）、心身の健康相談（復帰後は心身ともに体調を崩しやすい）、相談の場づくり（同じ境遇の人とつながれる場の提供、搾乳の場所の確保など）を期待している。②：産業看護職の人間性、対応、雰囲気といった着眼が見られた。女性と産業看護職の関係性について、1）女性は妊娠した時点から産業看護職と関わることを望んでいる、2）女性と産業看護職は業務上、直接の利害関係がない。この薄い関係性があるからこそ、女性は産業看護職に相談しやすいと考えている、3）両立における産業看護職の役割が女性に十分認識されていないため、相談していいのか躊躇う場面が生じていることが明らかになった。

３）女性からの両立に関する相談内容と産業看護職の支援内容を表 2 に示す。産業看護職が本人から受ける相談は、「プライベートに関する相談」と「仕事に関する相談」、「両立支援制度に関する相談」、「自分自身に関する相談」の 4 つのカテゴリーに分けることができた。プライベートに関する相談には子育てに関することや子どもの健康に関すること、家族との関係性に関することが含まれていた。これらに対し産業看護職は、個別の健康相談に加えて、行政サービスや専門の相談窓口といった社会資源の紹介を行っていた。仕事に関する相談には、業務に関することや上司・同僚との関係性に関すること、キャリアに関することが含まれていた。キャリアに関して、両立するロールモデルの不在、男女とも出産の時期や方法を自律的に選択するための教育の不十分さが指摘されているが、産業看護職は、同じ境遇の社員同士をつなぐために復職前後で懇談会を開催したり、両立セミナーを企画・運営することなどにより、キャリア援の一端を担っていることが明らかになった。両立支援制度に関する相談は、採用や異動、制度設計などを担当する人事課等にも関係する内容であることから、他部署と調整・連携しながら産業看護職は支援を行っていた。制度の利用そのものについては人事課等が担当するが、制度の利用によって発生する諸問題（両立の困難性、不安等）については人事課等と連携しながら産業看護職が対応していた。自分自身に関する相談には自分の健康に関する相談や両立への不安などが含まれていた。子育てや仕事に追われて自分の健康管理がおろそかになりがちであることが明らかになった。産業看護職は、個別の健康相談に加えて休養室の利用促進、血圧計の貸与、産業医との面談設定、勤務形態の変更調整等を行っていた。

表 2.女性からの両立に関する相談内容と産業看護職による支援の現状

大項目	中項目	内容	支援
プライベートに関する相談	子育てに関する相談	いう事を聞かない、イライラ、子の不登校、仕事で疲れ果て子に優しくできない、仕事でヘトヘトで以前のように子に十分な食事を作ってあげられない	個別の健康相談、公共の制度の紹介、産業医への紹介、専門の相談窓口紹介、傾聴、業務量について上司へ相談することをすすめる（保健師介入もあり）
	子の健康に関する相談	子どもの体調相談、子どもの病気、受診選択、障がいを持つ子が制度を受けられない年齢になった、子どもの障害、子のインスリン注射依頼、子の急な発熱などが頻回、	個別の健康相談、障害児に対応したサポート体制の構築、専門医紹介、周囲への協力要請、事業所内保育園の保育士によるインスリン注射（保育士との連携）、傾聴
	子どもの預け先に関する相談	学童を利用できなくなったらどうするか、保育園の確保困難、短時間制度などを利用できなくなった場合の子ども預け先、保育園に入れない場合の育休延長	制度の確認
	子の発育発達に関する相談		発育発達に関する保健指導、行政サービス紹介、乳幼児健診の案内、社会資源の確認
	家族との関係についての相談	夫が手伝ってくれない、親に頼れない、夫との価値観の相違と折り合いのつけかた	傾聴、公的支援制度の紹介
	家事に関する相談	異動に伴う通勤時間の増加で家事をする時間を確保するのが難しい、短時間での家事の仕方	傾聴、アドバイス
仕事に関する相談	業務に関する相談	配置転換、職種変更、テレワークによる深夜残業の増加、通勤時間の増加で仕事をする時間を確保するのが難しい、業務量が多い、マイカー通勤したい	労働時間、働き方の確認、体調確認、面談、上司への注意喚起、仕事時間の確保支援（健診の時間配慮）、マイカー利用の特例措置、送迎サービスの紹介、ベビーシッターなどの子育て支援制度紹介
	上司との関係についての相談	上司の目が怖い、上司の理解が得られない、子の急な体調不良に対する理解が得られない	上司への説明
	キャリアに関する相談	育児によるキャリア断念、両立のために仕事をセーブせざるを得ないこと、研修会に参加できない、復職の時期、キャリアに関する不安	先輩ママとの交流会開催、先輩ママと同じ境遇の社員を対象とした復職前懇談会の開催、話を聞く、両立支援セミナー開催、傾聴
制度に関する相談	制度に関する相談	時短だが定時で帰れない、業務量が多く短時間制度を活用できない、短時間勤務になっても業務量が変わらない、時短を利用することへの不安（周囲から何か言われないか、うしろめたさ）、育休中の給与、制度の利用条件、	労働時間、働き方の確認、体調確認、面談、上司への注意喚起、上司同僚とのアサーティブな関係構築、社内外の社会資源の紹介、面談、上司・周囲への教育、傾聴、人事部へつなぐ、制度がきちんと守られているか確認
自分自身に関する相談	自分の体、健康に関する相談	癌の治療との両立について、育休中の自分の健康診断やワクチン接種について、テレワークになったことにより子を寝かしつけてからの仕事が増え心のバランスが崩れている、疲労、睡眠不足、ストレス、めまい抑うつ症状、血圧、アルコール、両立でヘトヘト、土日も休む暇がなく体調が悪い、子に合わせた生活リズムで自分の健康管理がおろそかになりやすい、不妊治療を他に知られたくない、多胎児の妊娠、妊娠時のトラブル、次の妊娠の時期、妊娠時の体調不良、高齢での妊娠のおため体調が心配	相談窓口の設置、担当者の両立支援コーディネーター取得、個別の健康相談、産業医面談、上司と業務負荷調整、家族のサポート体制確認、周囲へのサポート依頼、公的制度の紹介、休養室の利用、血圧計の貸与、勤務形態の変更、時短などの制度紹介、妊娠中の休業対応
	両立への不安	相談相手がいない、効率よく家事をこなす方法、協力が得られない、	育休明けすぐの面談、産休前に利用できる制度の説明、健康推進室の紹介、カウンセリングルーム紹介、傾聴、定期的な面談設定
	その他	仕事中の搾乳	方法、管理説明

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 和田直子，杉本洋	４．巻 20(2)
２．論文標題 子育てと仕事の両立支援における産業看護職の役割	５．発行年 2022年
３．雑誌名 日本ウーマンズヘルス学会誌	６．最初と最後の頁 61-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 和田直子，小林房代，佐々木沙織，杉本洋	４．巻 21(2)
２．論文標題 子育てと仕事の両立における課題～産業看護職への調査を通して新たに見えてくるもの～	５．発行年 2023年
３．雑誌名 日本ウーマンズヘルス学会誌	６．最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計7件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 和田直子
２．発表標題 子育てと仕事を両立している母親の産業看護職に対する期待
３．学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
４．発表年 2020年

１．発表者名 和田直子,杉本洋
２．発表標題 子育てと仕事の両立支援の現状と支援を行う産業看護職に求められる資質能力
３．学会等名 第20回新潟医療福祉学会
４．発表年 2020年

１．発表者名 Naoko Wada, Hiroshi Sugimoto
２．発表標題 Decision-making by mothers using a compatible suppoort system of raising children and work
３．学会等名 第9回国際ヘルスヒューマニティーズ学会（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 和田直子
２．発表標題 産業看護職による子育てと仕事の両立支援の現状
３．学会等名 第94回日本産業衛生学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 和田直子
２．発表標題 産業看護職が捉えている子育てと仕事を両立している母親の力
３．学会等名 第10回日　本公衆衛生看護学会学術集会
４．発表年 2021年

１．発表者名 Naoko Wada, Hiroshi Sugimoto
２．発表標題 Necessary abilities for balancing work and childcare: Japanese women’s perceptions
３．学会等名 EAFONS2022
４．発表年 2022年

１．発表者名 和田直子，杉本洋
２．発表標題 祖父母同居と核家族の母親では子育てと仕事を両立する力の認識は違うのか？
３．学会等名 第32回日本産業衛生学会全国協議会
４．発表年 2022年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関